

サンフロント21

懇話会

〒410 沼津市魚町1番地
-8560 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL 055・962・6520

2019.1.29 No.118



静岡新聞社・静岡放送社長

大石 剛

新年あけましておめでとうございます。初春の県内は天候にも恵まれ、穏やかに新しい年を迎えることができました。

さて、本年5月から新しい元号となります。多くの災害に見舞われた平成でしたが、来たる新しい時代は豊かさが溢れる暮らしにつながることを期待しています。

昨年末には、世界経済の先行き不透明感や米株安などが悪材料となり、日経平均株価は一時2万円を割り込みました。10月からは消費税率が10%となる予定です。軽減税率や景気対策のための商品券、ポイント還元策などが議論されています。複雑な税制システムや消費の縮小などにより、日本経済への影響も心配になります。また、働き方改革や外国人労働者の問題など経済界のみならず、我が国にとって大きな変化の年

になる予感もします。

一方、海外に目を向ければ、米中の貿易摩擦。燃料税値上げに端を発しフランス全土に広がったデモ。一部が暴徒化しました。またアメリカを目指すホンジュラス国民らの「キャラバン」がメキシコ国境に達しました。対してトランプ大統領は州兵などを派遣し、取り締まろうとしています。世界の多くの場所で不安定さが増しています。

内外の情勢がますます見通せない中で、2020年東京五輪・パラリンピックは我が国が確実に取り組まなければならない課題です。残すところ600日を切りました。ご承知のように県内では伊豆市で自転車のトラック競技とマウンテンバイク競技が行われ、小山町など富士山麓を巡るルートがロードレースの主舞台になります。準備を万全にして迎えたいと思います。

当懇話会でも五輪開催を契機に、地域におけるスポーツ産業振興を推進するとともに、新たな観光誘客やまちづくりを支援していきます。本年も会員の皆様の温かいご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶



静岡県知事

川勝 平太

新年、明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

「富国有徳」は県政運営の基本理念です。それは「富士」を四字熟語にしたものです。「士(有徳の人材)」が「富(豊かな物産)」を支え、「富」は「士」のために用いる、「徳のある、豊かで、自立した」地域となって、ポスト東京時代を拓こうとするものです。民間企業も同じように富社有徳が求められます。

新たな総合計画「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」を昨年4月から実施しています。富士山の姿に恥じない理想郷づくりのための取り組みです。順調な滑り出しで One for all, All for one のラグビー精神をもって展開してまいります。

昨年は「静岡水わさびの伝統栽培」の世界農業遺産、「伊豆半島」のユネスコ世界ジオパークの認定、本庶佑先生(ふじのくに地域医療支援センター理事長)のノーベル医学生理学賞受賞など、慶事が続きました。平成25年6月の富士山の世界遺産登録を皮切りに、本県の世界クラスの地域資源・人材は急

増しています。その数は5年半(66カ月)で82件ののぼり、1カ月に1件以上のハイペースです。“ふじのくに”静岡県は、正に、世界の檜舞台に立ちました。

本年は元号が変わる節目の年です。日本は人口減少、超高齢化、東京一極集中などの課題を抱えている一方、明治維新から150年が過ぎ、学問・文化は国際的に高く評価され、戦争・テロの危険度の低い安全な国で、国民は世界一の健康寿命を享受し、外国人が憧れる国になっており、海外からの留学生も観光客も急増しています。

本県では、春には、国内最大規模の観光企画「DESTINATIONキャンペーン」、秋には、「ラグビーワールドカップ2019」、来年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」の自転車競技を控えています。国内外から本県への注目が集まり、交流の拡大は確実です。この潮流を加速し、「世界から見る」という視点と「世界の檜舞台に立っている」という誇りをもって、霊峰富士のもと「海と山の風景の画廊」を「ふじのくに回遊式庭園」にする美しい地域づくりを進めます。

国籍を問わず、誰もが努力すれば、夢が叶い幸せになれる、「Dreams come true in Japanの拠点」(愛称「ふじのくにドリカムランド」)となるように、全力で取り組んでまいります。御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、今年一年の皆様のご健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



沼津市長

頼重 秀一

新年あけましておめでとうございます。

平成31年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

沼津市長に就任し早8カ月が経過しましたが、「誇り高い、元気なまち沼津」の実現に向けて、様々な機会を捉えて市民の皆様への沼津のまちづくりに対する思いや、様々なご意見に耳を傾けながら、市政運営に取り組んでまいりました。

そして昨年は、沼津の中心市街地の活性化に大きな期待が寄せられている鉄道高架事業について土地収用法に基づく調査を実施するとともに、にぎわい創出の観点では沼津駅と沼津港間での次世代モビリティバス「EVバス」の試験運行、人が快適に過ごせるまちづくりに向けて沼津アーケード名店街において道路を歩行空間にする社会実験を開催するなど、新たな取組にチャレンジしました。

新年は、新元号がスタートするという歴史的な1年となることから、気持ちも新たに、沼津の明るい未来の一步を踏み出せる年となるよう、引き続き全力で市民の皆様とともに市政を推進していきたいと感じております。

大型商業施設「ららぽーと沼津」のオープンや、新市民体育館の建設に向けた具体的な取組など、都市的機能の整備が動き出す中、鉄道高架事業については、沼津駅周辺を中心市街地の目指すべき方向性について市民の皆様によりわかりやすく示しながら着実に推進していくとともに、本市の骨格を形成する高規格道路などの都市基盤整備についても推進してまいります。

沼津の元気の源は、市民の皆様であり、誰もがいきいきと暮らせるまちづくりに向けて、地震や津波などの自然災害への対策のほか、子育て・教育環境の充実に向けた保育園や放課後児童クラブの待機児童解消、市内小学校へのエアコン設置、高齢者の健康維持などに取り組んでまいります。

今年一年、市民の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

われら 亥年生まれ



2019年(平成31年)は、十二支が亥(いのしし)、十干では己(つちのと)です。これらを組み合わせた干支では己亥(つちのと・い)になります。それまでの主義、規律、秩序を見直し、次への準備をする年とされます。また個人でも知識を増やし精神を育てる。組織では人材育成や設備投資、財務基盤を固めるといいと言われます。内部の充実を心がけ、大地に足をつけて着実に進んでいく年になると思います。

亥年生まれの方は、自我をしっかりと持っており、何ごとに対しても自信にあふれた態度で接することができる指導者タイプが多いということです。リーダーシップを持ち、熱心でひたむきな、亥年生まれのサンフロント21懇話会会員の皆様に、新年の期待や抱負を寄せていただきました。



伊東ガス(株)
代表取締役社長

齊藤 大

昭和22年1月30日生まれ

つこつ歩んできた人生だったと思います。これからも健康に留意しながら、地域の皆様に、よりご愛顧頂けるホテルになりますよう頑張ってお参りたいと思います。

新年明けましておめでとうございます。
昨年は代表する漢字が「災」でしたが、本年は転じて「福」であることを念じます。

6回目の歳男の年を迎えてもさしたる感慨はありませんが、若い時に会った宮本武蔵の「我が事において後悔せず」を肝に銘じ、これからも、明るく、楽しく、世のため人のために、尽くしていけたらと思います。



ニューウェルサンピア沼津
総支配人

田村 治義

昭和22年4月17日生まれ

新年明けましておめでとうございます。
団塊の世代の走りに生まれて、あっと言う間に6回目目の年男を迎えますが、これまで地道にこ



東邦印刷包装(株)
代表取締役会長

鈴木 静一

昭和22年10月3日生まれ

新年明けましておめでとうございます。
亥年生まれ、生を受け6回目を迎える節目の年となります。

7回目も晴れて迎えられるよう精進し、何ごとでも“感謝・先人に学び・夢を未来に”の姿勢で頑張っていきたいと思っております。

自分自身とさらには、会社・仕事の質の向上を目指し、皆様と共に地域に貢献したいと願っております。先の見えにくい時代にはブランディング化による一増の努力が望まれます。微力ながら一助になればと思っております。

本年も宜しく願い申し上げます。



下田市長
福井 祐輔
昭和22年11月9日生まれ

新年明けましておめでとうございます。下田市では、本年4月から6月に実施される静岡デザインーションキャンペーンに向けて、第80回を迎える黒船祭やあじさい祭をはじめ、様々なイベントを企画しております。関係者の皆さまとともに、魅力ある観光地づくりに取り組む所存でございますので、より一層の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。



近藤良夫会計事務所
所長
近藤 良夫
昭和22年11月25日生まれ

新年明けましておめでとうございます。私は浜松市在住ですが同じ静岡県人として経済・社会的気質など東部と西部はどこか違います。西部にない何かがあります。これからも静岡県東部の事をもっと知りたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。



静岡県議会議員
多家 一彦
昭和22年12月8日生まれ

明けましておめでとうございます。今年は六廻り目の年男。ふじのくに型人生区分では「壮年熟期」になります。様々なことに熟達し、社会で元気に活躍する世代という年齢です。亥に倣い、これからの人生も果敢に挑戦し続け、新たな目標に猛進したいと思っております。



(株)フジテック
代表取締役
渡邊 偉佐男
昭和34年2月8日生まれ

あけましておめでとうございます。会社を起業して25年、地域のインフラを支える「新東名高速道」「中部横断道」「伊豆縦貫道」等、道路橋の基礎工事を中心に歩んでまいりました。これからも得意分野を伸ばし、特徴ある企業として地域に貢献出来るよう努力してまいります。



静岡県東部健康福祉センター
所長
後藤 睦
昭和34年2月18日生まれ

昭和34年から干支が一巡りし、今年で還暦を迎えます。県では現役で活躍する高齢者を応援するため「ふじのくに型人生区分」を提唱しております。それによると56歳から65歳は壮年盛期と呼ばれています。「食事、運動、社会参加」をキーワードに、まだまだ元気に活躍して社会に貢献して参りたいと考えております。



一般社団法人熱海市観光協会
代表理事
中島 幹雄
昭和34年4月23日生まれ

あけましておめでとうございます。子どもの頃、60歳の方は、すごいおじいちゃんに見えていた記憶があります。そんな自分が、気が付けば還暦を迎える年になりました。おかげさまで、今、熱海は市長を先頭に「オール熱海」を宣言してV字回復いたしました。特に駅周辺は平日でも多くの観光客の皆様でにぎわっています。これまで、たくさんの方々と出会いがあり、お世話になりご指導いただき、何より今、元気でいられることに感謝して、これからも地域社会に貢献していきたいと思っております。



富士市産業支援センターf-Biz
センター長

小出 宗昭

昭和34年6月14日生まれ

あけましておめでとうございます。2008年8月にf-Bizが誕生して以来丸10年が経ちました。「日本一高い、チャレンジスピリット。」をスローガンに地域から一人でも多くの前向きな中小企業者・創業者を生み出す本プロジェクトは全国の市町村から注目を集め、現在21市町村で〇〇Bizとして展開されています。地方創生のフロントランナーとして本年も挑戦していきます。



賀茂健康福祉センター
所長

大村 新治

昭和34年7月21日生まれ

新年あけましておめでとうございます。
サンフロント21懇話会にはなかなか参加できませんが、参加させていただいた会では面白いお話を聞かせていただき大変感謝しております。
私は、県に勤めて41年がたとうとしています。今年、私事ではありますが新たなことに挑戦したいと考えております。



静岡県議会議員

早川 育子

昭和34年8月28日生まれ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
今年、災害のない実り多き一年となることを願ってやみません。
還暦を迎えるにあたり振り返ってみると、亥年生まれにふさわしく「猪突猛進」の生き方でした。
新たな挑戦の一年に向け、様々な出会いに感謝し、地域に貢献できる人生を送りたいと思います。



静岡県下田財務事務所
所長

中島 敏雄

昭和34年9月7日生まれ

新年あけましておめでとうございます。県に奉職して以来38年、今年は締めくくりの年となります。これまで税務以外にも、福祉、観光、文化など様々な仕事に従事させていただき、多くの方々にお世話になりました。これからは地域への恩返しも行っていきたいと思います。



学校法人静岡理工科大学
沼津情報・ビジネス専門学校
校長

鈴木 経康

昭和34年9月15日生まれ

新年あけましておめでとうございます。
本校は、1983年に開校し今年3月で36周年を迎えます。本校も亥年生まれだったことに気が付きました。浜松の姉妹校から転勤してもう12年になりました。本校の還暦までにはあと二まわりですが、今後とも末永くよろしくお願いいたします。



静岡県健康福祉部
健康増進課 技監

植松 和子

昭和34年9月27日生まれ

新年あけましておめでとうございます。
とうとう還暦を迎える年になりました。
ここまでこられたのも、これまでお世話になった皆様のおかげと感謝申し上げます。
現在は静岡県の健康寿命が少しでも延伸できるよう取り組んでいますが、これからも今までの経験を生かし、地域に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。



静岡県田子の浦港管理事務所
所長

中谷 孔右

昭和34年12月4日生まれ

けっしておなじ姿を見せぬ不動の富士を見てみると、“移り変わりは浮世の習い”と言いながら世の流れを当たり前のように受け止めている自身に気づかされます。“和して同ぜず”の心を持ち続けて生きてきたいと思います。



大岡建設工業(株)
代表取締役

内野 聡

昭和46年1月11日生まれ

あけましておめでとうございます。

不惑とは遠い境地の四十台も後半になりました。淮南子に「年五十にして、四十九年の非を知る」とあります。昨年までたくさんのごことを休止していいましたので、全てのことに挑戦し頭も身体もフル活動する一年にします。



SMBC日興証券(株)
沼津支店長

澄田 達也

昭和46年4月27日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

今年当社は沼津の地に支店を開設して60周年を迎えます。長きに亘り多くの方々にご大変お世話になり、心より感謝しております。

私自身は沼津に赴任して3年目を迎えます。本場にいい所で一日でも長く勤務したいと切望しております。本年も公私ともどもよろしくお願いいたします。



三嶋大社
宮司

矢田部 盛男

昭和46年10月27日生まれ

平成三十一年己亥年、謹みて新年の御祝詞を申し上げます。

本年は天皇陛下御即位30年、御成婚60年、また5月に新帝陛下が御即位あそばされるといふ誠に目出度き年にあたります。皆様にとってこの良き年が、笑顔溢れる幸多き年となります様御祈念申し上げます。

本年も宜しくよろしくお願いいたします。



御殿場市長

若林 洋平

昭和46年12月24日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

早いもので「年男」として4度目の新年を迎えました。

年齢的には「中年」と言われる世代に入っていますが、気持ちと体はまだまだ「青年(壮年)」です！本年でいよいよ平成が最後となります。新たな元号の元でも、輝かしい御殿場の未来のため、引き続き全力で職務に邁進します。



(株)富陽軒
専務取締役

石井 太郎

昭和58年2月4日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

正月といえば、まず思い浮かべるのは「おせち料理」それは幼い頃から常に家業が身近にあったからなのだと思います。

その家業もあと少しで創業100周年を迎えます。

生涯をかけて取り組める事業がある事に喜びを感じ日々精進して参ります。



(株)植松グループホールディングス
代表取締役社長

植松 孝康

昭和58年4月9日生まれ

あけましておめでとうございます。

おかげさまで、弊社も今年で創業70周年を迎えます。様々な時代の変化の中、こうして歴史を紡いでこられたのも、お客様や社員またこの地域の方々に支えて頂いたからだと感じます。これからも感謝の念を持って、モットーである「この街を想い、この街を創る」を実践していきます。

◎参院選、改憲勢力が焦点 北方領土交渉は正念場



共同通信社 政治部長

松浦 基明

2019年の政局は、夏の参院選の結果に大きく左右される。安倍晋三首相は「20年の改正憲法施行」を掲げており、安倍政権下での憲法改正に前向きな政党や議員が、国会発議に必要な3分の2を占めるかどうか最大の焦点だ。

自民党は憲法9条に自衛隊を明記するなど4項目の案をまとめているが、拙速な改憲論議を警戒する他党の反対を受け、衆参両院の憲法審査会に提示できていない。連立与党の公明党も早期の議論加速には消極的で、参院選前の国会発議は困難な情勢だ。

首相は参院選で改憲勢力3分の2を維持した上で、19年秋の臨時国会か20年の通常国会で発議する段取りを描く。国民投票を見据え世論の理解も得たい考えだが、成算は立っていない。国の最高法規である憲法の改正には各党の幅広い賛同が必要とされるものの、野党第1党の立憲民主党は安倍政権下での改憲に反対する。数の力で押し切れば国民投票でしっぺ返しを受ける恐れもあるため、首相の戦略は難しさを増す。

野党は参院選で安倍内閣を退陣に追い込もうと、改選1人区での候補者一本化を急ぐ。明確な対立軸を設定し、反安倍票を呼び込めるかどうかが問われる。

首相はロシアとの北方領土交渉を巡り、6月に大阪で開かれる20カ国・地域（G20）首脳会合に合わせたプーチン大統領との首脳会談で一定の合意を目指す。両首脳は平和条約締結後に北方四島のうち歯舞群島と色丹島を日本に引き渡すとした日ソ共同宣言を基礎に、平和条約交渉を加速させる方針で一致しているが、主張に隔たりは多い。

日朝交渉も難題だ。首相は外務省ルートに加え、側近を北朝鮮側と第三国で接触させ、拉致問題の局面打開を期している。日本は拉致被害者の安否確認、北朝鮮は制裁措置解除を求めて平行線とされる。首相は金正恩朝鮮労働党委員長との会談を探り、在任中の解決を図る。

◎景気、緩やかな回復継続 先行きは不透明感強まる



時事通信社 経済部長

小島 洋

2019年の国内景気は緩やかながらも回復傾向を維持するとみている。現在の回復局面は1月に6年2カ月間となり、政府は「戦後最長を更新した」と宣言するはずだ。ただし、景気の先行きを展望すると、必ずしも順風満帆ではない。海外動向をはじめとして日本経済を取り巻く環境は、昨年より不透明感が強まっている。

日本経済の最大の焦点は、税率を10%に引き上げる10月の消費税増税だ。食料品などに軽減税率を導入しても、国民の負担は確実に増える。その結果、消費の冷え込みが心配されている。安倍政権にとっては増税後のマイナス影響を取り除くことが課題となっている。

このため、政府は18年度第2次補正予算と19年度当初予算、税制改正を総動員。国民の負担増を上回る規模の対策を講じ、景気の悪化を避けるために全力を挙げる。産業界には今年も賃上げを要請しており、春闘の労使交渉が注目される。政府の対策は国費で2兆4000億円を防災対策などに使う。近年は自然災害が多発し、インフラの整備や点検が欠かせない。積極的な財政出動は、官による景気のカンフル剤との批判もあるが、地方を含めた国内の経済を一定割合で刺激する効果をもたらす。地方経済には、増加の一途をたどる訪日外国人観光客の誘致も商機となろう。

産業界ではロボット、金融、自動車などあらゆる分野でデジタル技術とデータを活用した製品・サービス開発が盛んになった。昨年のトヨタ自動車とソフトバンクグループの異業種提携が象徴的で、こうした動きが加速するとみる。深刻な人手不足を背景とした省力化の設備投資も、逆風をチャンスに変えるきっかけになるかもしれない。

景気の先行きを占う上でポイントとなるのは海外だ。米中の貿易戦争や世界経済の減速、英国の欧州連合（EU）、日本が米国と行う貿易協定交渉など多くの不確実性がある。これらは状況次第で景気を下押しするリスクになることを頭に入れておく必要がある。

第24回東部地区分科会

人生100年時代を迎えて

日時／2018年11月9日 13時30分～16時30分

会場／ホテル沼津キャッスル



サンフロント21懇話会第24回東部地区分科会が2018年11月9日にホテル沼津キャッスルで開催され、人生100年時代の健康長寿の在り方をテーマに活発な議論が交わされました。

基調講演では静岡がんセンターの山口建総長が「人生100年時代のファルマバレープロジェクト」について解説し、一級建築士の天野彰氏が「超高齢化時代の家づくり」、静岡大学特任教授の竹林洋一氏が「長寿社会における自立共生支援と人間中心のAIの役割」をテーマにお話されました。続くトークセッションでは3氏がそれぞれの立場から高齢者の自立支援への提言、展望を語り合いました。

主 催 者 代 表 挨 拶

静岡新聞社常務取締役

谷 川 治

本日の東部地区分科会は人生100年という超高齢化時代をテーマにし、皆さまの関心も大変お高いと思います。医療の分野から静岡がんセンターの山口総長、建築の分野からアトリエ4Aの天野彰氏、AIの分野から静岡大学創造科学技術大学院特任教授の竹林洋一氏という超高齢化社会の自立支援におけるエキスパートをお迎えし、100年生きることを前提とした生涯に亘る自立支援への課題についてお話いただき、トークセッションで議論を深めていただこうと思います。

2020年の東京オリンピックパラリンピックまで2年を切りました。サンフロント21懇話会としましてはこの世紀の祭典を支援していきたいと思いますが、こうした活動が続けられますのも、会員の皆さまのご支援ご協力の賜物と感謝申し上げます。皆さま方のこれからのご健勝とご活躍を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

懇 話 会 代 表 挨 拶

サンフロント21懇話会運営委員長(伊東法律事務所所長)

伊 東 哲 夫

日頃はサンフロント21懇話会の活動にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。急速な高齢化社会を迎えたのは日本のみならず世界的な傾向であります。ご案内のとおり、昨年の我が国における平均寿命は、男性81.09歳、女性は87.26歳でありました。がんの治療が進み、死亡率が減ったことが一つの要因かと思いますが、今日はさらにこの平均寿命を超えた人生100年時代がテーマです。

長泉町のファルマバレーセンターは超高齢化社会における自立支援のモノづくりについて研究し、老化現象克服への取り組みを始めています。人生100年時代の老化がもたらす諸問題を明らかにし、クオリティオブライフを維持するためにどのような知恵や技術を活用し、老後を支援していくかを考えています。

今日は高齢化社会における自立、健康寿命支援のため、医療、AI、建築の各専門家にお話いただき、トークセッションを展開する予定です。いずれも皆さまにとって大変興味のあるお話、ご自身の健康もさることながら、産業へどのように展開していくかのヒントも得られるのではと思います。本日の催しが皆さまにとって実りあるものとなるよう祈念いたします。

基調講演

「人生100年時代の ファルマバレープロジェクト」

静岡がんセンター総長

山口 建氏



がんセンターが高齢化対策に挑む理由

私がふだん、がんの話をするときは、ご出席の半分ぐらいの方に関係する内容になりますが、今日のお話をご出席すべての皆さまがいつかは経験することになるでしょう。私以外の2人の専門家のお話もしっかり聴いていただければ、と思います。

資料の最初に雑誌「沼津史談」の拙稿を入れさせていただきました。2年ほど前に沼津史談会で講演した内容で、沼津は明治維新のときに若手の旧幕臣がやってきたというのが一つのエポックメイキングとなり、さらに第2次世界大戦前に海軍研究所や海軍工場ができたというのが沼津のその後の大きな礎になったのだらうと。この地で栄えている産業の多くがその周辺に原点があり、それらが衰えてきて次の産業に在り方についてしっかり考える時期に来ている、そうしなければ将来は厳しい・・・というようなことを書きました。

ファルマバレープロジェクトは16年余りが過ぎました。基本になっているのはファルマバレー宣言「私たちは患者・家族の視点に立ち、叡智を育み結集し、共に病と闘い、支えあい、健康社会の実現に貢献することを宣言します」です。がんセンターですから病気を意識した文言になっていますが、今は健康でも将来、老化現象が進むすべての人に対し、沼津あるいは静岡県東部に住んでいれば世界で最も優れた老化現象対策が行われる、そういう地域を目指すべく、1～2年前から取り組んでいるのが人生100年時代のファルマバレープロジェクトです。静岡がんセンターは開設以来、

10数年に亘って約3万人のがん患者を治癒し、1万5千名の方の看取りを行ってきました。この経験が超高齢社会の住居や居室の課題解決にも活かされると考えています。

ファルマバレープロジェクトの「かねづくり」

ファルマバレープロジェクトの目標は「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」「かねづくり」。この最後の「かねづくり」をしっかりやらないと、絵に描いた餅で終わってしまい、長続きしません。

これまでの成果は大きく3つに分けられます。
①橋渡し研究は基礎研究の成果をモノづくりに生かすということ。時間はかかるし打率は低いものです。
②医療者患者のニーズに沿ったモノづくり。規模は小さいプロジェクトが多く大きな儲けにはつながりませんが、着実に製品化され、利用されています。
③企業の次世代機器のお手伝い。これは企業自身も一生懸命やってくれますのでありがたい成功しています。プラスαで最近ではゲノムの問題も取り扱っています。

一定の成果が上がったところで旧長泉高校跡地を利用し、ふじのくに医療城下町の核施設としてファルマバレーセンターを開設しました。すでにテルモをはじめ、富士フィルム、オリンパスほか日本の5大医療機器メーカーのうち3社が参加しており、結果、静岡がんセンターで350億～400億円、ファルマバレーセンターで400億ぐらいの事業規模となって、プロジェクトとして一応は成功、という評価をいただいています。

2016年度からは新しいチャンネルを3つほど進め

ています。ひとつはがんゲノム医療の推進。この秋にSRLという臨床検査のトップメーカーとジョイントベンチャーを立ち上げ、日本のゲノム医療の推進に取り組んでいます。これには静岡がんセンターに蓄積された5000例のゲノムデータが活用されます。

また静岡がんセンターのノウハウを開発途上国へ提供するという輸出事業。現在までロシア・中国・ベトナム・フィリピン等に提供しています。これもすぐにはお金にはなりません。国際貢献の一環で、一部はJICAなど日本政府の支援で事業費用の3割に日本製品を使うことを条件に進めるなどグローバルに展開しています。

人生100年時代の意味

今日のテーマは超高齢社会に向けての健康寿命延伸・自立支援プロジェクトです。日本はこの分野では世界の最先進国で、日本で開発されるノウハウが今後、世界に展開されるでしょう。しかも日本の中のここ沼津から、です。その詳細をお話する前に、人生100年時代についてお話ししたいと思います。

「人生100年時代」というのは最近、突然聞かれるようになったキーワードです。社会学者のリンダ・クラットン著「100年時代の人生戦略」というベストセラーがきっかけと言われ、日本政府がこの本を後押しし、漫画本にもなりました。要約すると、2007年生まれの日本人の半数は、平均寿命が107歳を超える。社会保障制度の大変革も必要となります。定年はなくなり人生二毛作になる。著者が一番言いたいのは、65歳や70歳で定年になっても30～40年人生は続く。だからその後の人生をどうするかしっかり考えようというものです。

私は高校を卒業してちょうど50年になります。今年の5月に50周年記念同期会があったときは全卒業生346人のうち309人（89%）が参加し、亡くなった同期は37人いました。我々昭和25年生まれの男性の平均寿命は58歳といわれていましたが、今こうして68歳を超えてもちゃんと生きています。

平均寿命というはある年におぎゃあと生まれた赤ん坊が、社会状況や医療状況がまったく変わらないとして何年生きられるかという数字です。

昭和25年生まれの平均寿命が58歳というのは、昭和25年当時の社会状況や医療状況のままであったときに平均58歳まで生きられるという意味です。2007年生まれの子どもについては実は別の統計を使っており、107歳というのはあながち誤りではないともいえます。

獲得と喪失のギャップを克服するために

医者をやっていると、75歳ぐらいまで元気だった人が急に元気をなくすという例を時々みかけます。話を聞いてみると「平均寿命は81歳だから、あと6年しかない。どうやって生きて行けばいいか、夜も眠れない」とおっしゃる。平均寿命と平均余命を混同しているんですね。

生命保険会社が指標にしている生命表によると、80歳の人の平均余命は89歳、90歳の人は94歳、100歳の人は102歳です。生命保険会社の指標ですから一番信頼できる（笑）。人間の体の制約を考えたら110歳を超えるのは難しいのですが、80歳まで元気で来た人ならば、よほど無茶をしなければあと10年ぐらひは生きられる。そう説くと、7割ぐらひの人は「聞いてよかった」と言い、後の3割は「聞きたくなかった、早くあの世に行きたい」と言います（笑）。

高齢者の心のうちを考えてみましょう。「獲得」と「喪失」というキーワードが見えてきます。壮年中年ぐらひまでは配偶者、子ども、マイホームを得る「獲得の人生」で、生きがいがあり身体機能も充実している。やがて中年以降になると「喪失の時代」になっていく。次第に生きがいをなくし、身体の機能が衰え、親を亡くし、家も古くなる。がん患者さんはよく「振り返ってみると子どもが生まれた頃は忙しかったが、あの時代が一番幸せだった」とおっしゃいます。こういう獲得と喪失のバランスの悪さを克服するには、豊かな心と、健康で自立できる生活が必要だろうと、多くのがん患者さんを診て思います。

健康寿命と平均寿命の差は、現在約10年といわれますが、差は開いていくでしょう。10年20年と健康ではない時代が続くかもしれない。医者の立場から言うと、みなさん終活には熱心ですが、終活の前の苦しいこの10年20年にもきちんと向き合ってほしいですね。健康寿命は生活習慣や補助器具や治療によって、ある程度延伸させること

ができますが、それが尽きて要介護になった期間もさまざまな器具や自立の努力によって、本当の要介護の期間をできるだけ短くしてもらいたいのです。

老化現象と老化関連病はたくさんあります。老眼、白内障、難聴、虫歯歯周病、動脈硬化、高血圧、食欲低下、消化機能低下、排便障害、骨粗鬆症、脊柱管狭窄症等々。ただ最近では治療方法も進み、ドイツではピント調節ができる白内障手術も開発されています。難聴もいろいろな機械が出ており、脊柱管狭窄症も最近では翌日から動ける内視鏡手術法が開発されるなど医療分野からもかなり老化現象をフォローできるようになりました。脊柱管狭窄症の内視鏡手術は和歌山のある病院で行っています。こういった医療情報を提供することも重要です。

高松宮妃殿下から教わったこと

これらの対策は健康なうちから考えることが大事だと教えてくださったのが、高松宮妃殿下でした。ご存知のとおり徳川慶喜公の孫にあたる方で、私は20年近く侍医を務めさせていただきました。お元気なころは高輪の旧高松宮邸光輪閣にお住まいで、昭和のある時期にお屋敷を改築されるとき、段差のないバリアフリーのワンフロアに変えられた。緊急時にはお庭にヘリコプターが離発着できるようにした。実に先見の明がとおりでした。この御殿に来年5月から1年半仮住まいされるのが現天皇皇后両陛下です。

一般に今のマイホーム設計は元気な両親が子どもたちのために2階建てやら個室やらを想定しますが、この発想はそろそろ変えたほうがいいと思います。現在、亡くなる方の8割が病院で、2割が自宅居室。立派な終の棲家を建てても、最後は病室か自宅のひと部屋で過ごすことになる。学生時代に下宿の1室ですべて事足りていたのと同じです。

なぜ静岡がんセンターが住居のことまで考えるかというと、我々は高齢老化現象に近い症状をつねに診ており、がん患者さんには補助器具を使い、医療機器を使い、介護物品を用意する。老化対策に必要なあらゆることを行っているからです。余命1～2か月という段階でも職員が一生懸命ケアさせていただいている。その経験が役に立つので

す。

がんセンターの緩和ケア病棟の設計は、病室設計のプロとよく相談し、患者さんが最も過ごしやすいよう工夫しています。人が30年かかって老化していく現象をがん病棟では1～2年のスパンで診ているわけで、そこに5倍10倍のノウハウが蓄積されているのです。

ファルマバレープロジェクトで開発された製品には、病的骨折に使う道具、老化現象を防ぐ道具等も含まれます。これらをどうやって組み合わせしていくか、静岡がんセンターが関与することは沢山あるということを知っていただければと思います。

人間工学から考える終の棲家

以前、ル・コルビュジェというフランスの建築家の展覧会が森美術館で開かれ、人間工学に基づいた家や部屋や道具の設計に注目が集まりました。レプリカで展示されたマルセイユの集合住宅の人間工学にかなった階段に感心し、がんセンターの設計にも採り入れました。コルビュジェの階段は身長183cmの人に合わせたサイズで日本人にはちょっと広かったのですが非常に歩きやすい。彼が妻のために建てたカップ・マルタンの休暇小屋というレプリカは、私の学生時代の下宿部屋と大して変わらない8～9畳一間の造りでした。設計当時は健康で、しかも本人は事故で溺死してしまったので、もし彼が介護を必要としたときにどうやって暮らしただろうかと想像し、試しに6～8畳ぐらいの部屋にテレビ、手術ロボットベッド、AI支援ロボットを置いたフロア図を描いてみました。今の手術ロボットは1基3億円ぐらいしますが、目的を絞り、ベッドの形にすることもできる。手術ロボットは出血量が圧倒的に少なく、使用した医師も絶賛しています。

課題は排便です。宇宙飛行士の排便方法が参考になると思ったのですが、詳しいことは教えてもらえませんでした。認知症対策も課題です。静岡がんセンターには陽子線治療装置に30年間外さず使用している巨大ぶら下がりクレーンがあり、このクレーン構造を病室にも使えるのではないかと考えています。

健康なときに建てた家を高齢化したらリフォームするという発想はそろそろやめて、100歳にな

っても暮らせる棲家を最初から考えたらどうでしょうか。

未来型地域包括ケアシステムへの期待

地域医療にも発想の転換が必要です。開業医が親から引き継いだ病院をそのまま経営するというよりも、地域の保健・医療・福祉施設が複合した医療モールのようなものを整備し、効率的な地域包括ケアシステムにしてはどうでしょうか。

しばしば高齢者ドライバーの自動車事故がニュースになりますが、事故発生状況を見ると高速道路や幹線道路ではなく、病院の周りやスーパーマーケット付近で起きることが多い。その近辺を走る時は運転に注意してほしいと思います。実はトヨタ自動車裾野市に自動運転の未来都市を創る

構想を発表しました。車や道路のみならず、家やまちづくりまで創り上げるのがトヨタの役割になるのではと思います。

そんなことを踏まえ、ファルマバレープロジェクトとしては、個人家族、行政、医療機関、介護サービス、介護施設、医療産業、建築・居住空間・生活物品・物流・人流・コミュニケーション・情報・メディアをすべて包括し、個別マッチングというより、一つの大きなコンセプトでセンター側から企画指導し、「こういうものを作りませんか？」と提案していく。こういう方針で臨みたいと考えています。

ご自分の地域でそういうモノづくりができそうな企業があれば、情報を集めて参加していただきたい。結果この地域が高齢社会のモノづくりの一大拠点になればと願っています。



超高齢化時代の家づくり

アトリエ4A 代表取締役
一級建築士

天 野 彰 氏

長生きすることは必ずしもいいことばかりではありませんが、老後を生き抜くため、私はこれまで2S+3Fの家というのを提唱してきました。

実際の住まいづくりで忘れられるのはセルフディフェンスという観点です。我々はどうしても防災は市や地域がやるものだという感覚がありますが、地震や豪雨やあり得ない災害に対しては、自助という姿勢が不可欠です。同様に、老いに対する自立という思想がなければ家づくりは面白くない。

大枚な金を払って家を建てる人の多くは、子どもを中心にした住まいを考える若い世代ですが、ちょっと先の自分の将来を考えてみてください。自立に必要なのは、3つのF—バリアフリー、エネルギーフリー、メンテナンスフリー。そして私たちが生きていくために必要な2つのS—セルフディフェンスとセルフサポートです。

もし3LDKの住まいをリフォームしようと考え

ているなら、部屋を増やすより、間仕切りを取っ払いましょう、受験生の子どもがいたとしても一部屋与える必要はありませんと提案します。子どもが広い部屋で大の字で寝ているのに、親が狭い部屋でガマンしているなんておかしいでしょう。広い個室にいると子どもは散漫になります。3LDKの間仕切りの壁の中なんてゴキブリしかいないのですから、間仕切りを外してしまえば壁いっぱい7000冊の本を収容できる書棚が置けます。可変住空間という言葉を聞いたことがあると思いますが、同じ空間が書斎にも家事室にもなる。静岡駅前にあるブックマンというスライド本棚を開発した会社の社長といろいろ研究しました。

狭い方が落ち着く—これが私の家づくりの基本です。老後は大きな家に住む必要はない。先ほどの高松宮邸と同じです。ワンルームで生活ロボット（生活維持装置）を置けば、家中にある散漫なものが全部不要になるのです。

そんなふうに減築をして空間が出来たら、2DKを新たに作って下宿賃貸にしたらどうでしょう。相場より安く貸して、条件として大家である自分たちに何か起きた場合のために緊急ベルをつけておく。いざというときは遠くに住む子どもよりも側にいる他人のほうが頼りになる。いわば賃貸契約同居です。

災害に対しては、基本的な補強はちょっとしたアイデアで安価にできます。阪神淡路大震災のときは真下からドンと来て、1本柱が食い込むように折れた家もありましたので、1本の芯柱に2本抱き込んで3重の柱にする。これだけでかなり強固になります。

火災を防ぐにはコンクリートで補強することも必要です。「うだつ」というのはご承知のとおり、大通りに出て来た老舗大店の屋根の両側にウサギの耳のようにピッと建ったもので、文字通り「卯建」と書く。隣家の火事やプライバシー保護、騒音防止の効果を兼ねていました。こういう昔の知恵も役立ちます。

先ほど山口先生のお話にもありましたが、階段

は自分のリハビリやトレーニングになるような階段がいいですね。万が一滑り落ちても途中で止まるように、一直線ではなく中間に踊り場を作る。こんなこともセルフサポートのひとつです。

トイレは出来れば開閉が楽な引き戸式がいいですね。私は寝室の中のトイレではなく、トイレの中の寝室という考え方で、ベッドから起き上がってそのままお尻をスライドし、自分で用を済ませるようにさせたい。風呂場の床もすのこにして、長いシャワーホースを付けて自分で洗えるようにする。介護施設にあるように天井にクレーンを付けて自由に回転させる方法も考えました。いずれはAIロボットが入浴エスコートするような時代になるでしょう。ヒューマノイドは本体がひっくりかえる危険もあるので、部分機能ロボットでもいい。そんなことをあれこれ考えています。

人生100歳時代。途方もない老後の時代が待ち受ける中、自分の時計が今50代ならば、あと半分をどう生きるか、住まい方から真剣に考えてみましょう。



長寿社会における自立共生支援と人間中心のAIの役割

静岡大学創造科学技術大学院特任教授
みんなの認知症情報学会理事長

竹 林 洋 一 氏

医療介護の現場は普通の人にはわからないところが多く、認知症ケアも根拠となるデータが少ないので医療に比べてわかりにくい。その部分のエビデンスを作るため、今までとは違うIOTと人間中心のAIを進めています。

認知症というのは高齢化が一番の危険因子です。皆さんが長生きすればするほど認知症のリスクが高まる。100歳まで生きたとしても認知症になった状態で幸せでいられるか、そこがポイントですね。我々の心構えとしては、認知症は恐れず〈個性〉だと思ふこと。治療をする医療とは違うコンセプトで向き合うべきなのです。認知症の人の感情や行動を理解し、軽減させていく。そこに、人

間中心のAIという視点が必要になります。

キーワードは「ごちゃまぜ」です。人生100年時代の自立共生支援には、いろいろな立場の人が集まってごちゃまぜに交流することが大事です。情報学は相互作用を生み出す科学です。認知症ケアは発展途上の分野ですが、心や脳の問題と関わるのでAIとの親和性が高い。医学ジャーナリスト協会で賞を取られた上野秀樹さんもAIの役割が急拡大すると言っています。いろいろな産業の知恵が必要となるので、それだけビジネスチャンスも広がります。

皆さんは誤解されているかもしれませんが、認知症は病名ではありません。原因疾患は70～80

ぐらいあり、中にはケア次第で治るもの、住宅を工夫して折り合いをつけられるものもある。医師にもわからないことがたくさんあるので、我々は医師を含めた研修事業を行っています。

動物の中では人間だけが〈死ぬ〉ことを知っているし、〈考えること〉について考えてしまう。だからこそ認知症と診断されると鬱になってしまい、心の働きまで弱ってしまいます。人は最初に出会った人に愛着を持ちます。赤ん坊にとっての母親はもちろんのこと、患者にとって医師や看護師や介護士と愛着関係が持てれば、それだけで幸せです。コミュニケーションが重要なんですね。

ITの専門家は自分の領域の中だけで研究開発を進めがちですが、他の分野と連携しながらやるのが肝要です。認知情報学とはさまざまな専門家がごちゃまぜに参画することで進展する。ハコモノを作るだけでは不十分です。

今のAIは、50種類あるAI技術の中で5つぐら

いしか活用されていません。人と環境の状況を理解し、みんなでデータベースを作るのが大事です。静岡がんセンターには長い間の貴重な臨床データがあると知りましたので期待しています。

脳の認知機能というのはつねに動いており、認知症患者でも一日のうちで波があります。100歳になっても機能は残っているので、表情や言葉次第で変わることもある。この分野の科学はほとんど進んでいません。人間中心のAIとはこういうことで、たとえば大阪大学では笑顔とはどういう表情なのかを機能的に研究するプロジェクトを進めています。

大事なのはコミュニティの設計です。講演会やシンポジウムをやって終わりではいけません。事業者中心ではなくご本人とご家族を連携の中心に据えた、みんなで知を創り出す市民情報学が必要なのです。



超高齢社会における 自立支援の実現に向けて



山口 建氏(静岡がんセンター総長)
 天野 彰氏(アドリエ4A 代表取締役・一級建築士)
 竹林 洋一氏(静岡大学創造科学技術大学院特任教授・みんなの認知症情報学会理事長)
 〈進行〉
 青山 茂氏((株)シード副社長・TESS研究員)

◆青山 今日人類未到の超高齢社会に先頭を切



青山 茂氏

って突入していく日本の第一人者3人にお集まりいただき、「ごちゃまぜ」のディスカッションからイノベーションのきっかけが見つかればと思っ

ています。

先ほどのお話のとおり、2025年までに地域包括ケアシステムを構築するには、介護は施設から在宅へ、という流れを構築しなければならず、住宅問題は避けて通れません。年を取った時、自分の家で暮らすにはどうしたらいいか。排泄や認知症の問題に光明はあるのか、ロボットやAIにはどこまで利便性を持たせたらよいか、それぞれの見解をうかがいます。

◆山口 自立に向けた住居の在り方はファルマバレーセンターでも具体的な設計図を描いていますが、我々建築の素人には平面のイメージしかなく、専門の建築家のご意見をうかがいたいと思います。具体的にAIに何をさせたらよいか、先ほどの天野先生のクレーンのお話が気になります。

◆天野 クレーンに目を付けたのは、いざ車いす



天野 彰氏

生活になったとき、今の住宅は使い勝手が悪いからです。20年ぐらい前、師匠と仰ぐ建築の先生を施設に見舞いに行ったとき、偶然、先生がお

むつ交換をしている場面に出くわし、目があった時、先生はギョッとした表情をされました。真夏でしたが先生は「雪は何センチ積もった？」と奥様に聞かれる。認知症になられたんだと涙があふれてきましたが、奥様が中座され、2人きりになったとたん、「天野、よく来たな」と手を握って来られて仰天しました。先生は「こんな屈辱的なところに長居できない」と吐露される。おむつ

交換のたびに看護師から「何を食べたの？臭いわね」等と言われていたようで、排泄の世話を受けることがいかに辛いかと心が痛みました。

私自身、骨折して入院したときも排泄には本当に困って、トイレだけは自分で何とか出来るようにしなければと実感し、本気で取り組み始めました。

◆竹林 AIによる自立共生支援には、この人がど



竹林 洋一氏

んな状態で、家族がどこまでの支援を求めるのか、全体像を描くことが大事です。世界の先進的な施設では排泄問題は食べ物から考えます。エビ

デンスを取る時、今の介護記録や看護記録では情報が足りないので、まずは啓発活動にAIを使います。

日本は、機器のデバイス系は得意ですが、ソフトウェアづくりは弱い。データをただ放り込むというのは間違いで、ソフトというのはエレガントに造らなければいけません。今の若い世代はプライベート情報を提供することにあまり抵抗はありません。おそらく世界中で私たちチームが最も多くデータが取れていると思います。病院や在宅でデータを取るしくみをもっと考え、データ提供者にはインセンティブを与える等、行政もいろいろな制度設計をしていただきたい。

◆山口 AIは元気なうちにその人の行動を徹底的に学習させ、認知が始まったとき、たとえば「そこはあなたがいつも行くところではありません」と警告できるようにしたらどうでしょうか。その意味でも住まいは広くて何部屋もある豪邸ではなく、コンパクトな家が望ましいですね。

◆竹林 今でもAIに出来ることはありますが、常識を持ったロボットを作るには10年ぐらいかかります。実は4歳の知能のロボットを作るのはダビンチより難しいのです。一見優しそうなのが実は難しい。人間の行動パターンのある必要などところだけパターン化することから始めています。山口先生はエンジニアリング的な感覚をお持ちなので嬉しくなりますね。

◆天野 山口先生は道を間違えましたね、建さん

ですから建築家になってもよかった（笑）。〈人間が先、次に建築と空間〉というのが私の座右の銘です。家を建てる人の多くは、耐震には関心を持って、自分が老人になったときのことを考えません。介護施設はものすごく増えましたが、1棟100床ある施設でも介護士が不足しているから空室が多く、3階がまるまる空いていて電気もついていないという施設もあります。車椅子やベッドに移乗させるだけ等、ちょっとした手助けができるロボットがあればいいのですが。

◆**竹林** 現場の困りごとを聞く仕組みを作りたいと思っています。困りごとのデータベースをうまく活用できれば、専門家が具体的な知恵を投入することができる。データベースづくりはAIが得意な分野です。困りごとに折り合いをつけ、解決策をデザインすることは人間の知恵がなければできません。かといっておかねづくりにならないければ無理ですね。

◆**青山** 今までは身体介護のお話でしたが、心の問題として、「獲得」から「喪失」の時代になって生きていく価値はどこにあるのか、介護される側の幸福感についてどう思いますか？

◆**山口** 大きなテーマですね。認知症になる手前



山口 建氏

の、元気だけれど喪失感が続き、排泄介助が必要になってくると人間のプライドはとても傷つきます。先ほど豊かな心が必要だと申し上げました

が、まず、生老病死一人はいつかは死ぬのだという認識を持つことが大事です。私が知っている限り、自分の余命がはっきり分かった患者さんで取り乱した人はいませんでした。死ぬという認識を持つことがまず大事です。

2番目に、自分の身の回りの森羅万象に気づくこと。作家の井上靖が絶筆で「今、自分は生きている」「森羅万象の中で生きている」と闘病日記に書いています。がんセンターの緩和病棟にはちょっとした庭があり、患者さんは小さな花が成長する過程を眺め、とても心穏やかな表情をされます。

3番目には幸せの閾値を下げる。当たり前

のことが幸せだ、「獲得」がなくても幸せだと思えるよう自分自身を教育していくこと。4番目は医師や看護師など周囲の人との絆を大切にすること。5番目は小さな志を持つこと。朝起きた時、今日の目標を一つ決める。一人一人違うと思いますが、基本的にこういうことができれば自立する心が持てるようになり、完全に人に頼りきってしまうという状態から抜け出せるのではないかと思います。

◆**天野** 実際に家を建てる人やリフォームをする人と話をすると、このファミリーにはこんな家に住んでもらいたい、出来るだけ老後という言葉を使わずアイデアを出してあげたいと思います。実際の絵を描いて見せるのではなく、夢物語をするんです。

70歳で家を建てた男性は、寝たきり寸前だったのですが本当にビックリするくらい元気になれました。家をコチョコチョいじっていると人間、元気になるんですね。時には素材を見せて五感で感じてもらう。静岡県には素晴らしい材木がたくさんあり、無垢の木の匂いを嗅いでもらったりするだけで、ずいぶん気力が湧いてくるようです。難しいことはありません。

◆**竹林** 認知症と診断された人は、実際はかなりのことが認識できています。アルツハイマーが進行し、自分が19歳だとか3歳だとか言うおばあさんも、介護の仕方次第でよくなるのです。人間、認知症になってしまったら終わり、では決してありません。

◆**山口** 川勝知事が庭がなければ家庭にならないとよくおっしゃいますが、庭があるのは高齢者にとっては間違いなく効果的ですね。

◆**青山** 自立支援は産業としてどれだけ可能性があるのでしょうか？

◆**山口** 今でもファルマバレー構想は医療産業ですが、ベッドサイドのチリ紙を入れる箱を造ることだって該当します。すべての人が参加できる産業です。

◆**天野** いろいろなシステムをちょっと見直せばよいと思います。耐震化も全部を強靱化する必要はありません。筋交は急激な荷重が加われば折れてしまいますが、ピストンで力を吸収するだけで免震になる。単純な見直しです。老化しないようにカバーをすれば長持ちします。

住宅も作ってなんぼ、売ってなんぼという考えではなく、先ほどご紹介した契約同居のようなシステムを進めてほしい。他人と同居するには契約



が必要で、その社会基盤が出来ていないのが現状ですが、同居人がいれば家賃収入が入りますし、独居するよりよっぽど安心できる。人と人のコミュニケーションを創るシステムを考えるべきです。
◆竹林 自立共生支援は一定のカタマリで取り組んで、評価やノウハウを貯め込むようにすべきです。それにはコミュニティが必要です。成長産

業になるのは間違いのない分野です。静岡県全体をみれば東はがんセンター、西には静岡大学がある。この分野は静岡県がトップになれると確信しています。
◆青山 自立支援の実現にはさまざまな英知を結集させるしくみが必要であると実感しました。今日はありがとうございました。

〈出演者プロフィール〉

- 山口 建氏(やまぐち・けん)
 静岡県立静岡がんセンター総長(兼) 研究所長
 1974年慶應義塾大医学部卒。99年国立がんセンター研究所副所長。同年宮内庁御用掛を併任。2002年県立静岡がんセンター総長。18年厚労省がん対策推進協議会長就任。00年高松宮妃嘉研究基金学術賞、14年アポット賞受賞などをはじめ受賞多数。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、ゲノム医療、がんの社会学。14年より慶應義塾大学客員教授、大阪大学招聘教授を併任。
- 天野 彰氏(あまの・あきら)
 (株)アトリエ4A 代表取締役 一級建築士
 1943年愛知県生まれ。日本大理工学部建築科卒業後、67年アトリエ4A設立。大阪万博で生活産業館の浜口氏の補佐として全体計画に従事。元産産省の産業構造審議会や厚労省の大規模災害救助研究会専門委員を歴任。住宅や医院・老人施設の設計監理を全国で精力的に行う。著書は「50代から生涯暮らすリフォーム」「転ばぬ先の家づくり」など多数。

- 竹林 洋一氏(たけばやし・よういち)
 静岡大学創造科学技術大学院特任教授、みんなの認知症情報学会代表理事
 1980年東北大学大学院工学博士課程修了後、東芝入社。研究開発センター技監を経て静岡大教授。音響信号処理、人工知能などの実用化に従事。情報処理学会高齢社会デザイン研究会主査、人工知能学会理事などを歴任。情報処理学会フェロー受賞。2003年 デジタルセンセーション設立。17年現職に。エクサウィザーズ取締役フェローも兼任する。
- 進行
 ■青山 茂氏(あおやま・しげる) (株)シード取締役副社長
 (株)オリエンタルランドを経て現職に。(株)スポーツ・ウエルネス総合企画研究所代表取締役社長。静岡県内外の企業および自治体のプロジェクトのコンサルティングから事業プロデュースまで幅広く手掛ける。ふじのくにしずおか観光振興アドバイザー。サンフロント21懇話会のシンクタンクTESS研究員。

ラジオマイトーク 【平成30年10月28日放送】



やま だ しろう
山田 司朗氏
 富士急シティバス(株)
 代表取締役

ラライブの高速バス運行

〈お話のポイント〉

- ◆富士急行の沼津営業所と三島営業所が平成7年に分社化され、富士急三島バスになり、平成15年、現在の社名に変わりました。運行エリアは沼津市、三島市、長泉町、裾野市と富士市の東田子の浦駅まで乗り入れています。緑のラインのグリーンベルトで親しまれています。
- ♥高速バスの沼津-東京駅線を10月から1便増便しました。朝東京駅を出て昼前に沼津に着く便で「ラライブ! サンシャイン!!」のキャラクターをラッピングしたバスです。

- ▽モットー 郷に入れば郷に従え
- ▽趣味 写真(主に富士山)、釣り
- ▽出身地 山梨県

- ◆三島と河口湖を結ぶバスは富士山が世界遺産に登録されてから火が付き、利用者が登録前の4倍になりました。特に外国人観光客が利用されます。外国人観光客は現金を使いたがらない。カード、スマホ決済が進み、交通事業者、観光業者も利用環境を整備する必要があります。バス車内でもWiFiファイがつながるように対応していきます。
- ♣高速バスの利用増進にはパーク&ライドといってバス停近くに大きな駐車場を設け自由に使えるようにしたことで人気が高まりました。

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

- ◇伊東ホテル聚楽
- ◇ダイハツ沼津販売(株)
- ◇日本政策金融公庫沼津支店
- ◇東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社
- ◇(株)エー・エル・シー
- ◇(株)いでぼく
- ◇静岡県農業協同組合中央会

- 執行役員総支配人 星川 隆司
- 代表取締役社長 直井 稔一
- 支店長 佐藤 真
- 総支社長 伏見 保則
- 代表取締役社長 森田 邦裕
- 代表取締役 井出 行俊
- 東部支所長 秋本 智彦

■会員の変更

- ◇(一財)企業経営研究所
 理事長 内山 義郎 → 理事長 青木 孝弘
- ◇スルガ銀行(株)
 本店営業部部長 榎原 昌利 → 本店営業部部長 小林 敏彦
- ◇ネットヨタ静岡(株)
 代表取締役社長 渡邊 光和 → 代表取締役社長 梨本 幸博
- ◇富士信用金庫
 理事長 小滝 勝昭 → 理事長 浅見 祐司
- ◇静岡放送(株)
 取締役報道制作局長 伊藤 充宏 → 報道制作局長 石埜 雅己